青江部会長冒頭発言から：丁度一年前宇宙探査及び月探査についての議論を行ったが、その後世界の情勢が急速に進展したという状況を受け、月探査について従前整理していたものより一歩踏み込んだ我が国としての方向付けが必要だ[1]と云う事で、計画部会の下にワーキンググループを設け審議を進め、其れを受けて中長期計画を見出して意向と云うのが夏の段階であった。月探査 WG を計 4 回行い、そのレポートを紹介頂き、其れを踏まえて中長期計画の審議を頂きたい。それに先駆け（かぐやの説明を促した。）

冒頭、青江部会長が要請し、JAXA の樋口理事が参考資料（かぐや）を説明し、DVD を上映した。

松尾：この計画をスタートしたのは、遡りますと 10 年位になります。当時の NASDA と ISAS の最初の大型の共同計画としてスタート致しました。其の時立上げ並びに取り纏めをなさったのが、今日ワーキンググループのレポートをなさいます鶴田先生でいらっしゃいます。私自身は共同の事務局が出来た訳ですが其処に看板を掛けたと云う事が私の役割で御座いました。唯今になってみると自慢することが其れ位しかないと、誠に残念なことだと思っています。当時まあ、10 年前は、月と云う事を世界中が喋っている時期じゃなかった訳ですね。そう云う時期にスタートしまして、予算その他の都合もあって、今の打上げになった訳ですけど、丁度世界的な潮流の中で、ぴったりの場所に嵌ると云う事になりました。但し今後につきましては、色々と柔軟かつ賢明に対応しなきゃ行けないと云う風な状況もあろうかと思います。その辺も鶴田先生の方からご報告があるかと期待しております。

文科省の片岡洋参事官が、資料 13-1-1（月探査 WG 報告）を説明した後、鶴田座長が 3 分ほど発言し、その後 6 分ほどの質疑応答があった。尚、資料 13-1-2（概要（一枚紙））は説明しなかった。

鶴田座長：一口で云うと、結構難しいワーキングループだったと云う事ですが、国内外の状況、それから国際法の関係、日本の状況とかを考えて、演繹的に導くとこう云う風になりますと云う事をやりました。それで、議論の中でしばしば出て来たのは、「キラッと光るターゲット」なんですね。「もう少しキラッと光るものを出せないのか。」と云う意見がありました。此れは誠に尤もな意見で御座いまして、ですけども状況を一寸考えて頂くと、実は、此のワーキンググループは少し早過ぎました。「かぐや」が、今素晴らしい結果を出してますけど、其れが出て、其れを基に日本の研究者・技術者が世界で認められて、それで、自他共に第一人者と思える人

[1] 政策を纏めるのでなく、計画を纏める部会であるから、事情が整えば出来る限り明細化することは正しい判断である。しかし、「世界の情勢が急速に進展した」事がその動機であるというのは少々悲しいことである。

たちが沢山生まれた時に、此の会をやったら違った結論が出ると。つまりあと一年半ぐらい後に行い、其れを活かせる様な結論にしとくべきではあるという風に、かなりの人が思ったんじゃないかと。今、丁度、正に坂を上って、山を登ってるところです。それで間もなく頂上が見えてくる、そう云う段階にあるんじゃないかと思いながら、私も少し、もう一寸、「此のワーキンググループの結論は此れですよ。」といって、「そうか凄いなァ。」と、皆が思う様なサンバツ（？）が出せれば良いなと、僕は思ったんですけども、「其れは此のワーキンググループでやるべきではないのかな。」と云う風に思いました。まあ、あのー、先程チラッと言ってましたけど、例えば、レーダーサウンダーと云う月の地下の構造を見るようなもの、此れを全球やったらこんな凄い事は無い。地下数キロメートルの構造が見えてしまう。云う様な事を今正にやろうとしている。其れも取った、じゃあ其の次のステップはどうかと云う風に、其れを踏まえた結論であるべきで、そのつもりでって云うのが、（言葉を切ってしまう。）

青江部会長：はい、どうも有難う御座いました。（質問を促した。）

澤岡：有人についての表現が、非常に歯切れが悪いんですが、9頁の下から5行目（「5.1 月探査の基本的考え方」の最後の部分）の、国際協働に於ける有人活動、その内の「独自の有人活動については、」と云う此の「独自」は、上のものに対する独自なのか、月とは関係ない独自の有人活動を意味しておられるのか、その辺り、繋がりが良く読めないんですが。

片岡参事官：この独自の有人活動につきましては、我が国として独自の輸送系を持って有人活動をやって行くと云う事で御座いまして、まあ此の記事全体が月探査の基本的な考え方で御座いますので、月への有人活動と云う事を考えた場合に、国際協力で以って行くというもの、それから独自に輸送系を持って行くと云うものがあって、夫々についての考え方を示したものです[2]。

澤岡：そうしますと此の「独自」と言うのは月探査に関する独自のものと云う風に理解して宜しい訳ですか。

片岡参事官：此処の記述はそうで御座いますけれども、其れ以外も含めて、独自の有人活動については、従来からの方針がそう云った方針で御座いますので、そう云う意味では従来からの方針を変えて居ないと云うのが此の意味で御座います。

青江：他に如何でしょうか。

米倉：良いんじゃないんでしょうかね。今、今年の厚生省（？）さんの色んな状況は、本当に外のせいにしてると思うんですけど、日本国内の問題が凄く多いと思うんで、新しい事に本当にチャレンジするっていうな事をもう一回振り返るって点では、当初僕は非常に否定的だったんですけれども、だん

---

[2] 余計の事を言ってしまった。「此の報告は月探査を扱っている中ではあるが、独自の有人については従来からの方針通りに表現したものである。」と言い、基礎的な技術を着実に身に付けることを言い添えたほうが良かった。

だん宇宙も大事だって（笑いで掻き消される）

青江：確かにマスメディアの取り上げ方が非常に良いインパクトが発信されておるなって感じが致しますね。

谷口：大変どうも有難う御座いました。本報告と直接何の関係もありませんけれども、中国の嫦娥一号について、我々何の情報も無いわけですが、その後どう云う風になってるか、現状分かったら教えて頂きたいなと。

JAXA 樋口：所謂、オープンになってる情報以外、特別に中国今、ああ、今度中国の方来られるんで、そう云う話し合いをする心算ですが、此処１ヶ月遅れで、我々は月面 100 キロで周回をやって、彼らは 200 キロぐらいの処の周回で観測できる状態になったようで、そう云う軌道に乗って、国際学会等で聞いている範囲のセンサで今観測が始まってる状態だと。其れが、我々掴んでる例えば分解能とかそう云うものが、本当に出てるかどうかについては、未だ十分分かりません。けども、まあ、ほぼ予定通り行ってるような情報が多いです。それ以上一寸申し上げられません。

谷口：どうも有難う御座います。

青江：如何でございましょうか。それでは月のワーキンググループにつきましての報告につきましては以上の通りとさせて頂きました上で、此れを踏まえて、宇宙探査の項につきましては相当書き換えて御座います。これからご議論頂きます、次の議題で御座います中期計画の議論で御座いますが、其れが大きなポイントのうちの一つです。それからもう一つは、輸送系の中の中型ロケットにつきましての開発、此れにつきましては従前は、この８月の段階で議論を頂いたまでの処では、キチンとした評価を踏まえつつ、民生の GX 計画と云うものを支援をして行くと云う政策方向を打ち出して居った訳で御座います。それにつきましては近時、昨日で御座いますが宇宙開発委員会にも報告されたんで御座いますけれども、民間側から新しい追加的な支援と云うものが要望されて御座いまして、そう云った新しい事情と云うものを踏まえて、支援につきましての評価と云うものを新たにスタートさせると云う風な新しい事態が生じて御座います。其の生じた新しい事態に即しまして、どう云う風に中型ロケット開発と云うものを持って行くべきかと云うのが、少し考えておかなきゃいかんポイントの内の一つとして、今日浮かび上がってきて御座います。従って、其れに即した修文も、この原案に於きましては為されて御座います。その辺を中心に、新しい、今日ご議論頂くバージョンに就きましては、ご説明を頂きます。